

# 製図R7に合格する必殺「製図短期合格法」

## 1. 令和7年の製図試験に合格する必殺法

R7の製図試験に合格するためには、次の3点が最も効率のよい学習である。  
これは、2ヶ月半という短期間に製図試験に合格する必殺法である。

(1) 80%以上の的中する3つの予測課題を学習する

(2) 一発不合格となる用途条件・法違反を防止する

(3) 確定エスキスと計画要点まとめを学習する

### (1) 80%以上の的中する3つの予測課題を学習する

製図試験で最も効率のよい学習法は、確実に的中する予測課題を集中的に覚えることである。しかし、試験元は試験課題を予測させないために、様々な工夫をしている。

実際、大手資格学校(S社、N社)は、様々な予測課題を毎週作図させるという手法を取っている(研究会はこれを否定するものではない)。毎年、15種類程度の予測課題が示されるが、そのどれかは的中するものの、あまりに課題が多すぎて受講者は、「結局、何が出るの?」という疑問に陥る(全てを把握するには膨大な時間を要する)。

研究会では、毎年、予測課題を3案に絞り、その3案が本試験課題の80%以上の中することを最大の目標にしている。過去7年間では、連続で80%以上が本試験課題に的中した(下記R6検証結果)。

【令和6年度 設計課題: 大学】

2024.10.18

### 本試験課題と予測課題との比較検証

- ・本試験の課題内容と研究会の予測3課題との比較検証について、図面は表1に、計画の要点等は表2に示す。
- ・表1に示すように、**図面**で予測できなかったのは、製図室です。ただし、名称は違いますが他室があり応用で書けます。特に予測課題3は、階数自由、床面積指定なし、講堂は段床形式、免震構造、道路斜線の全てにおいて的中した。更に、今年は7×7スパンの単純書き漬しとして50㎡以上指定が出たが、それは予測課題2での50㎡以上と同じであった。
- ・表2に示すように、**計画の要点等**で予測できなかったのは、(1)の一部、(6)ですが、(1)は動線計画等を応用で、(6)屋上設備はR5と同じ問題なので研究会のR5解答を見ていればそのまま書けます。その他(2)~(5)は予測課題と全く同じ内容であった。
- ・表1と表2からも明らかなように、研究会の予測3課題は、**80%以上の中**したと判断できます。

表1 各予測課題の比較一覧表

各社	課題名	は類似内容												は異なる内容												備考		
		建築用地				用途				実質南北の条件				教育部門				共用管理部門				設備					備考	
		規模	縦	横	階	以上~以下	東	西	南	北	大講堂	教室	研究室	図書資料	ラウンジ	製図室	事務室	会議応接	ゴミ室	食堂	カフェ	その他	設備指定条件等	備考				
本試験	R6課題	1,680	48	35	自由	無し	無し	無し	無し	道路	道路	陸地	陸地	300m	大80人 中50人	50㎡ 計18室	100㎡	適宜	製図 計1700㎡	50㎡	適宜	適宜	50㎡	備置 適宜	受水槽、消火ポンプ、屋上設備	屋上庭	特1	階数自由、床面積指定なし、講堂は段床形式、免震構造、道路斜線、50㎡以上
研究会	予測課題1	1,728	48	36	7階	7.200	~	7,800	陸地	陸地	道路	道路		大160㎡ 中80㎡ 小40㎡	25㎡ 10室	40㎡		6人	適宜	適宜	レストラン		地下へ受水槽室、消火ポンプ室、不活性ガス設備室、屋上設備	屋外テ	特1	アトリウム、エスカレーター、キャンパス動線、B1設備立		
	予測課題2	1,850	50	37	3階	1,800	~	2,200	陸地	陸地	陸地	道路		大120㎡ 中60㎡ 小40㎡	25㎡ 10室	50㎡		共同 50㎡	6人	8㎡	カフェ 20人	備置 50㎡	設備スペース	屋外広 庭広場	特1	勾配敷地勾配屋根、車回し車寄せ、陸地駐車動線、B1平面図、耐力壁、部門指定なし、全通路1.8m以上、50㎡以上		
	予測課題3	1,700	34	50	自由	無し	無し	無し	陸地	陸地	陸地	道路	300㎡	大80㎡ 中50㎡ 小30㎡	25㎡ 6室	50㎡	30㎡ 40㎡	生産 100㎡	8人	適宜	10㎡	食堂 50人	備置 30㎡	受水槽、消火ポンプ室、屋上設備	屋上庭 屋上テ	特1	階数自由、床面積指定なし、大講堂は段床形式、免震構造、収容エスカレーター、道路斜線と北側斜線	

表2 課題(計画の要点等)の比較検証

赤字は推定できた、青字は推定できなかった

本試験の課題内容	研究会(計画の要点等まとめ)
(1) 施設の機能構成、配置・動線計画等について①~④の観点から配慮 ①建築物の敷材化、②セキュリティ、③多様性への配慮、④交流の場	セキュリティは、まとめの「計画3セキュリティ」で解答可能、他は問題としては ないが、まとめの動線計画等の内容を応用すれば解答可能
(2) 基礎免震構造の外周部のクリアランスの考え方及び安全性について考慮	まとめの「構造10免震構造」をそのまま書けば解答可能
(3) 講堂の天井等落下防止対策について考慮したこと	等まとめの「構造7高天井の天井等落下防止対策」をそのまま書けば解答可能
(4) 学生・教職員の帰宅困難者の一時滞在に必要な給排水衛生設備、その他計画	まとめの「設備4地震災害の対応」をそのまま書けば解答可能
(5) 講堂に採用した空調方式と、採用した理由及び配慮したこと	まとめの「設備6大講堂の空調方式」をそのまま書けば解答可能
(6) 屋上等に設置する①~④の設備の配置と配管とした理由など計画の考慮 ①太陽光パネル、②キュービクル、③設備配管取出口、④空調室外機等	まとめでは書いてませんが、R5の問題と全く同じであり、研究会のR5記述解 答を見ると解答可能

## (2) 一発不合格となる用途条件・法違反を防止する

表1は、新試験制度となったH21からR4までの合格率等である。合格ランクⅠは、H30までは40%であったが、R1から35%と、5%も厳しくなった。また、R1からは、ランクⅢとランクⅣの比率が約6割と大きく変わった。研究会では、R1から採点方式、特に**法違反**は一発不合格へと変更になったと推定している。

R7に合格するには、**用途条件**を守ることが基本条件であるが、更に**法違反しない**図面を書き上げることが必須事項と推定する。R1から「受験者の答案の解答状況」として「法令への重大な不適合」が示された(下記参照)。この点は、R2以降も継続して示されている。1級建築士になるには最低限として法令を守らなければいけない、法違反する図面は合格させないという試験元の意図が明確になっていると推定する。

従来は、作図量が合否に直結すると言われていたが、現在は、特に法違反しない図面を書き上げる、その学習に時間を割くべきであり、単なる作図の多さでは合格できないと判断した方がよい。

表1 製図試験の合格率

年度	受験者数	合格		不合格	
		ランクⅠ	ランクⅡ	ランクⅢ	ランクⅣ
平成21年	12,545人	41.2%(5,164人)	25.8%	23.0%	10.0%
平成22年	10,705人	41.8%(4,476人)	27.8%	23.5%	6.9%
平成23年	11,202人	40.7%(4,560人)	30.5%	18.1%	10.7%
平成24年	10,242人	41.7%(4,276人)	27.9%	18.2%	12.2%
平成25年	9,830人	40.8%(4,014人)	27.3%	19.2%	12.7%
平成26年	9,460人	40.5%(3,825人)	32.7%	20.5%	6.3%
平成27年	9,308人	40.5%(3,774人)	25.2%	23.3%	11.0%
平成28年	8,653人	42.4%(3,673人)	27.1%	20.7%	9.7%
平成29年	8,931人	37.7%(3,365人)	21.2%	29.9%	11.2%
平成30年	9,251人	41.4%(3,827人)	16.3%	16.5%	25.9%
令和元年	10,151人	35.2%(3,571人)	4.3%	30.8%	29.7%
令和2年	11,031人	34.4%(3,796人)	5.6%	24.3%	35.7%
令和3年	10,499人	35.9%(3,765人)	6.3%	26.9%	30.9%
令和4年	10,509人	33.0%(3,473人)	6.1%	32.4%	28.5%
令和5年	10,238人	33.2%(3,401人)	2.1%	22.1%	42.6%

ランクⅠ：知識及び技能を有するもの(合格)

ランクⅡ：知識及び技能が不足しているもの(不合格)

ランクⅢ：知識及び技能が著しく不足しているもの(不合格)

ランクⅣ：設計条件・要求図面等に対する重大な不合格に該当するもの(不合格)

**R1から審査(法違反等)が厳しくなったと推定** (以下はR1公表のランクⅢ及びⅣの内容)

センターから公表された「**受験者の答案の解答状況**」

ランクⅢ及びⅣに該当するものが多く、具体的には以下のようなものを挙げることができる。

- ・設計条件に関する基礎的な不適合：「要求されている室の欠落」や「要求されている主要な室等の床面積の不適合」
- ・法令への重大な不適合：「延焼のおそれのある部分の位置(延焼ライン)と防火設備の設置」、「防火区画(特に吹抜け部の1階部分の区画)」や「直通階段に至る重複区間の長さ」等
- ・そのほか建築計画に基礎的な問題があるもの：「吹抜けの計画(吹抜けとされていないもの)」等

※この傾向は、**R2、R3、R4**も続いている。

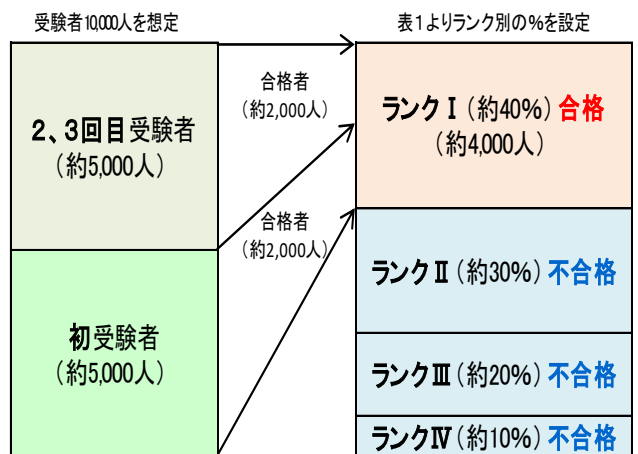


図1 受験者1万人での製図合格イメージ図(H29以前)



**R1から審査(法適合)が厳しくなったと推定**

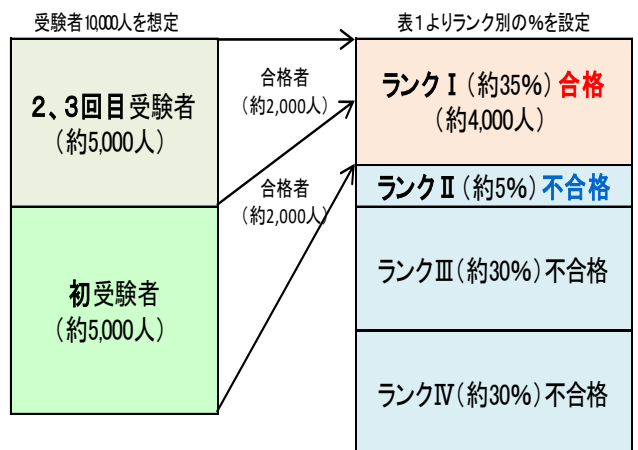


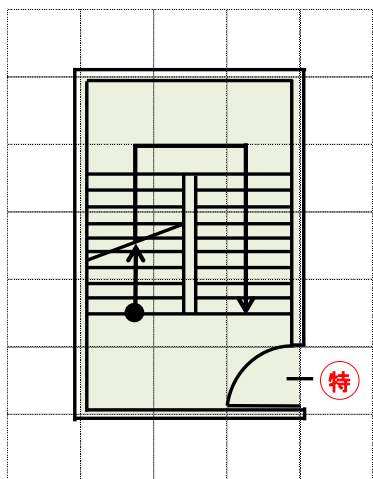
図2 受験者1万人での製図合格イメージ図(R1以降)

注) 図1は、研究会による受験者1万人とした場合の推定イメージ図ですので、参考として見て下さい。

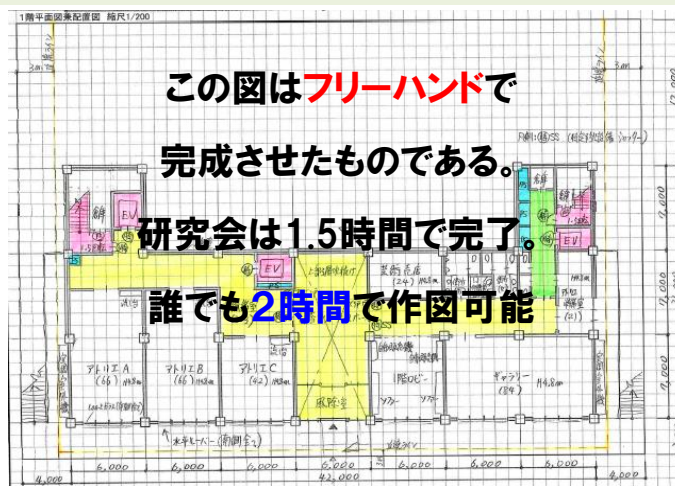
### (3) 「確定エスキス」と「フリーハンド」により2時間で完了

製図試験は、2時間でエスキスを完了させて、法違反しない図面を書き上げることが合格の第一条件となる。そのためには、試験前にある程度、自分のエスキスを確定して起き、それを試験中に多少の変更でエスキスを完了させるという「**確定エスキス**」を学習することが有力である。更に、高速に図面を仕上げるため「**フリーハンド**」を取り入れることも有力である。

下記は、確定エスキスとフリーハンドの一例である。製図試験は、時間との勝負の試験であり、受験者が「確定エスキス」や「フリーハンド」能力を持つことは、**2時間でエスキスを完了させ2時間で作図完了**させるために必要なテクニックである。



階段の確定エスキス



フリーハンド作図例

### (4) 研究会の「R6計画の要点等まとめ」を丸暗記

近年は法違反が注目されているが、従来は、「**計画の要点等**」が合否を決定するとも言われていた。特に、初受験者の方は、この計画の要点等の知識が殆どないことから、2年目、3年目の受験者と大きく差がでてくる。

その解決策では、研究会の「**計画の要点等まとめ**」を**丸暗記**して下さい。表2は、R6大学の計画の要点等まとめが本試験に対して、どの程度的中したかを示した検証結果である。ほぼ全問が的中したので、研究会のまとめを丸暗記することで、この計画の要点等へかける時間が割愛できる。その結果、作図や

表2 課題(計画の要点等)の比較検証

赤字は推定できた、青字は推定できなかった

	本試験の課題内容	研究会(計画の要点等まとめ)
(1)	施設の機能構成、配置・動線計画等について①～④の観点から配慮 ①建築物の教材化、②セキュリティ、③多様性への配慮、④交流の場	セキュリティは、まとめの「 <b>計画3セキュリティ</b> 」で解答可能、他は問題としては ないが、まとめの動線計画等の内容を応用すれば解答可能
(2)	基礎免震構造の外周部のクリアランスの考え方及び安全性について考慮	まとめの「 <b>構造10免震構造</b> 」をそのまま書けば解答可能
(3)	講堂の天井等落下防止対策について考慮したこと	等まとめの「 <b>構造7高天井の天井等落下防止対策</b> 」をそのまま書けば解答可 能
(4)	学生・教職員の帰宅困難者の一時滞在に必要な給排水衛生設備、その他計画	まとめの「 <b>設備4地震災害の対応</b> 」をそのまま書けば解答
(5)	講堂に採用した空調方式と、採用した理由及び配慮したこと	まとめの「 <b>設備6大講堂の空調方式</b> 」をそのまま書けば解答
(6)	屋上等に設置する①～④の設備の配置と配管とした理由など計画の考慮 ①太陽光パネル、②キュービクル、③設備配管取出口、④空調室外機等	まとめでは書いてませんが、R5の問題と全く同じであり、研究会の <b>R5記述解 答</b> を見ると解答可能